

介護教育の重要性 ～子どもから大人まで～

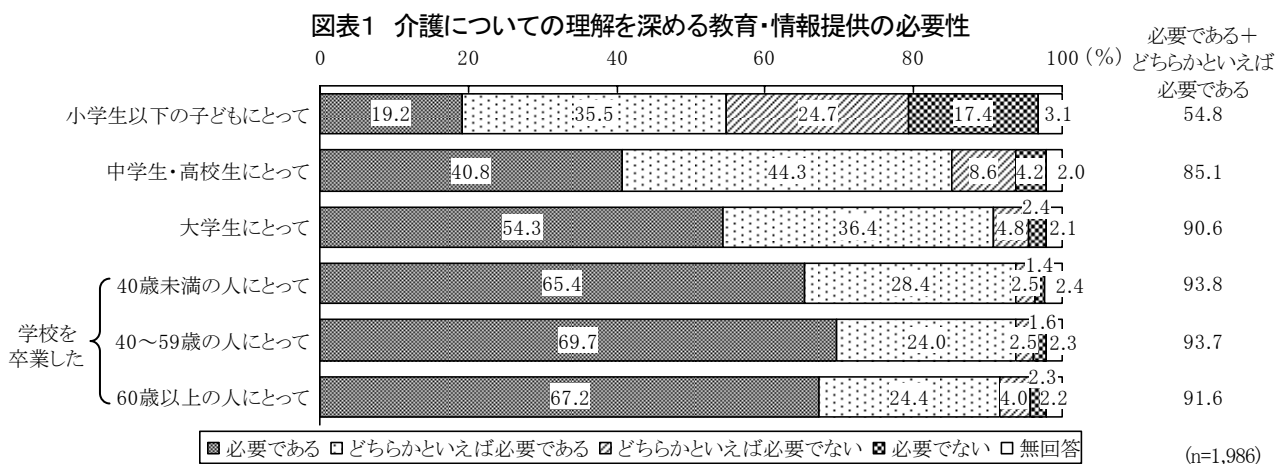
水野 映子

人々の介護に関する関心は総じて高い一方で知識は十分でないことを、筆者は2012年2月9日に当社ホームページで公表した『Life Design Focus』*で述べた。では、介護に関する知識や情報を提供する機会としての教育はどの程度必要と考えられ、どのような方法・内容でおこなわれているのだろうか。当研究所が実施した2つの調査の結果を紹介する。

*水野映子「あなたは介護についてどの程度知っていますか?—生活者アンケートにみる認知度と関心度—」
http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/focus/fe1202.pdf

＜若いときから必要と考えられている介護教育＞

2010年1月に18～69歳を対象に実施した「今後の生活に関するアンケート」においては、介護についての理解を深めるための教育・情報提供が子どもから大人までの各年代の人にとってどの程度必要だと思うかをたずねた。その結果、図表1の通り、既に学校を卒業している年代の人それぞれにとって「必要である」と答えた割合は6割を超え、これに「どちらかといえば必要である」を加えた割合は9割に達した。また、中学生・高校生や大学生にとっても9割前後、小学生以下の子どもにとっては過半数の人が「必要である」または「どちらかといえば必要である」と答えている。つまり、ほとんどの人は中高大生や社会人にとって介護についての理解を深めるための教育や情報提供が必要だと考えている。



資料：第一生命経済研究所「今後の生活に関するアンケート」（2010年1月）

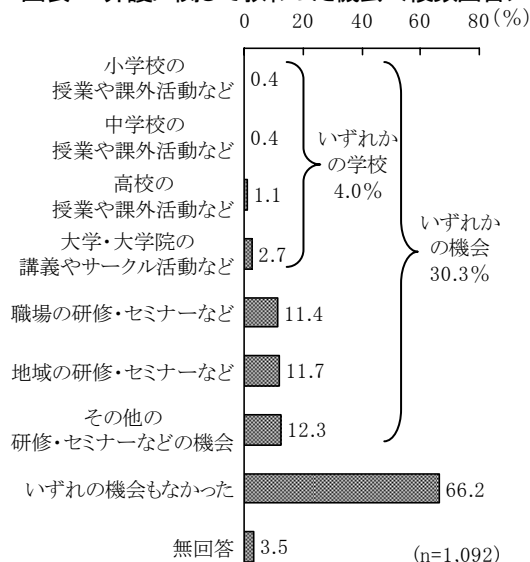
＜介護に関して教わった経験がある人は3割＞

では、実際にはどの程度の人がどのような機会に介護に関する教育を受けているのだろうか。当研究所が2011年12月に30代～60代を対象に実施した「自分の介護の準備に関する調査」によると、介護に関して何らかの機会に教わったことがあると答えた人は30.3%であった（図表2）。教わった機会は「地域の研修・セミナーなど」（11.7%）、「職場の研修・セミナーなど」（11.4%）がそれぞれ1割程度であ

る。小学校～大学・大学院の授業・講義や課外活動など、いずれかの学校教育の課程で教わった人は4.0%しかいない。介護教育、特に学校における介護教育は、必要と考えられているほどには実際にはおこなわれていないといえる。

図表3で性別にみると、男性より女性のほうがいずれかの機会に教わった割合がやや高い。また性・年代別にみると、学校で教わった割合は30代で高い。学校教育に介護というテーマが少しずつ取り入れられているものと考えられる。一方、「地域の研修・セミナーなど」で教わった割合は60代で最も高く、特に女性では3割に達している。

図表2 介護に関して教わった機会<複数回答>



資料：第一生命経済研究所「自分の介護の準備に関するアンケート」(2011年11月)。図表3～5も同じ。

図表3 介護に関して教わった機会(性別、性・年代別)<複数回答>

(単位：%)

	n	小学校	中学校	高校	大学等	学校以外の	職場	地域	その他	いずれかの
男性	537	0.4	0.2	1.1	2.0	3.2	12.1	9.3	11.0	27.4
女性	555	0.4	0.5	1.1	3.4	4.9	10.8	14.1	13.5	33.2
男性30代	128	0.0	0.8	3.1	3.9	7.0	14.8	4.7	6.3	23.4
男性40代	134	0.7	0.0	0.7	1.5	2.2	12.7	3.7	13.4	26.1
男性50代	138	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	11.6	10.1	9.4	25.4
男性60代	137	0.7	0.0	0.7	0.7	1.5	9.5	18.2	14.6	34.3
女性30代	134	1.5	1.5	3.7	9.0	13.4	13.4	5.2	7.5	29.1
女性40代	140	0.0	0.7	0.7	3.6	5.0	10.0	8.6	13.6	30.0
女性50代	145	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	8.3	12.4	11.0	26.2
女性60代	136	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	11.8	30.1	22.1	47.8

注1：項目名の正しい表記は図表2の通り(例：「小学校」＝「小学校の授業や課外活動など」)

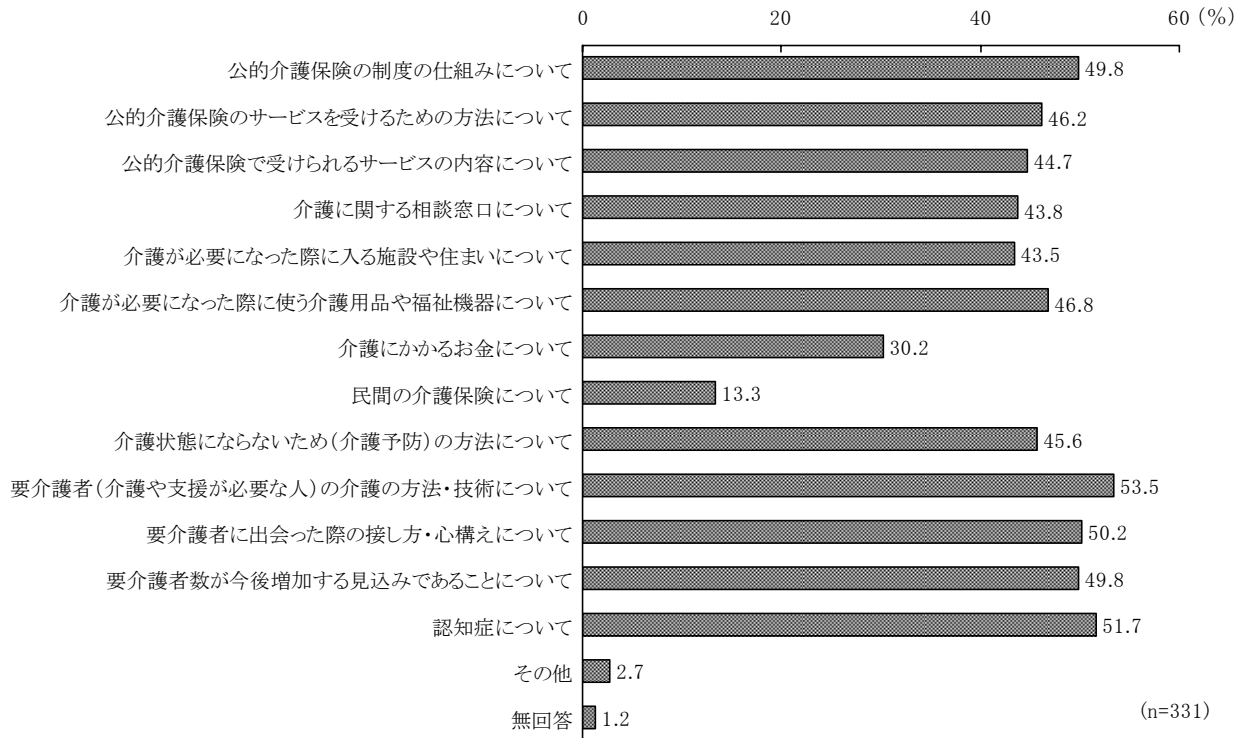
注2：男女、男性30～60代、女性30～60代の中でそれぞれ最も高い数値を太字で示した(小数点第1位まで数値が同じ場合は小数点第2位を比較)

<「介護にかかるお金」について教わった人は少ない>

次に、前述の質問でいずれかの機会に介護について教わったと答えた331人に対し、どのようなことを教わったかたずねた。図表4の通り、ほとんどの項目が4～5割台で並んでいる。ただし「介護にかかるお金」(30.2%)、「民間の介護保険」(13.3%)といったお金に関することについて教わった割合は他に比べて低い。冒頭で紹介した『Life Design Focus』でも述べたが、介護にかかるお金については、知識は少ないが関心は高いことが明らかになっており、教育・情報提供の必要性が特に高いといえる。

図表5で性別にみると、男性はお金に関することや公的介護保険に関すること(「公的介護保険の制度の仕組み」「公的介護保険サービスを受けるための方法」「公的介護保険で受けられるサービスの内容」)を教わった割合が女性に比べると高い。一方、女性は男性より「要介護者(介護や支援が必要な人)を介護する方法・技術」「要介護者に出会った際の接し方・心構え」「介護が必要になった際に使う介護用品や福祉機器」「介護状態にならないため(介護予防)の方法」など実践的な内容を教わっている。また年代によっても、教わる内容には違いがみられる。

図表4 介護に関して教わった内容<複数回答>



図表5 介護に関して教わった内容(性別、性・年代別)<複数回答>

(単位: %)

	n	公的介護保険の仕組みについて	公的介護保険のサービスを受けるための方法について	公的介護保険で受けられるサービスの内容について	介護に関する相談窓口について	介護が必要になった際に入る施設や住まいについて	介護が必要になった際に使う介護用品や福祉機器について	介護にかかるお金について	民間の介護保険について	介護状態にならないため(介護予防)の方法について	要介護者(介護や支援が必要な人)の介護の方法・技術について	要介護者に会った際の接し方・心構えについて	要介護者数が今後増加する見込みであることについて	認知症について
男性	147	60.5	49.7	47.6	46.3	42.9	42.9	36.1	17.0	42.2	40.1	40.8	48.3	50.3
女性	184	41.3	43.5	42.4	41.8	44.0	50.0	25.5	10.3	48.4	64.1	57.6	51.1	52.7
男性30・40代	65	64.6	47.7	41.5	40.0	38.5	40.0	35.4	20.0	33.8	43.1	41.5	36.9	41.5
男性50・60代	82	57.3	51.2	52.4	51.2	46.3	45.1	36.6	14.6	48.8	37.8	40.2	57.3	57.3
女性30・40代	81	34.6	29.6	34.6	28.4	35.8	48.1	18.5	12.3	49.4	72.8	59.3	46.9	51.9
女性50・60代	103	46.6	54.4	48.5	52.4	50.5	51.5	31.1	8.7	47.6	57.3	56.3	54.4	53.4

注: 男女、男性30・40代と男性50・60代、女性30・40代と女性50・60代の中でそれぞれ高いほうの数値を太字で示した。

<すべての世代に介護に関する教育・情報提供を>

介護というと中高年以上の人の問題ととらえる向きもあるが、若くても親や配偶者、あるいは自分自身に介護が必要になる場合はあり、町などでサポートを必要とする人に接する機会もある。そのような場合に備えて、早い時期から介護に関する情報収集や準備をしておくことには意義がある。また、調査結果として示したように40歳未満の人でも介護に対する関心は高く、彼らに対する介護教育が必要だという声も多い。若いうち、できれば学校教育の段階から、介護についての、もっと広くいえば高齢社会についての関心を喚起し、理解を深めるための教育や情報提供をおこなうことが重要であろう。